

会期中の併催イベント

会長講演・表彰式

日時：3月27日(土) 13:40-15:20
会場：S8 会場 11 月ホール
13:40-14:10 会長講演「統合と細分の知・情報・発信・人材：化学と化学会の機能強化」
平成 22, 23 年度会長 岩澤 康裕
14:20-15:20 表彰式

スプリングコンサート2010 —管弦楽と吹奏楽の共演—

日時：3月27日(土) 16:00-17:45
会場：S8 会場 11 月ホール
1. 化学オーケストラ：日本化学会会員を中心に、広く化学関係者で2002年に結成された団体で、日本化学会春季年会会期中に「スプリングコンサート」を毎年開催しています。
曲目：モーツァルト/ディベルティメント K.138, モーツァルト/交響曲第32番 ト長調 K.318, J. シュトラウスⅡ/皇帝円舞曲。
2. 近畿大学吹奏楽部：全日本吹奏楽コンクールでは過去5年連続金賞受賞による3度の特別演奏を含め、通算25回出場、18回の金賞を受賞しており、定期演奏会、ポップスコンサートをはじめ、海外との文化交流や国際親善の活動も盛んです。
曲目：コットンテール、スリーピーラグーンほか (Big Band Stage), A 列車で行こう、オペラ座の怪人ほか (Wind Band Stage)。

ATP交流会 Open NetworkからOpen Collaboration, そしてOpen Innovationへ

日時：3月26日(金) 18:00-19:30
会場：本館食堂 KURE (近畿大学本部キャンパス内)

ATP 発表会場での講師や参加者とのディスカッションや交流の不足分を、フォローアップを含めて、補っていただく目的で、カジュアルな場として交流会を設けました。あわせて、異業種間や産官学間の交流やネットワーク形成の場としての ATP について知っていただく機会ともなっております。どなたでもご参加いただけますので、この場を活用して、将来の共同研究や事業展開、イノベーションの種を見つけましょう。

参加費：無料
申込方法：年会参加者はどなたでも参加できます。事前申込み不要。直接会場へお越し下さい。

懇親会

日時：3月27日(土) 18:00-20:00
会場：本館食堂 KURE (近畿大学本部キャンパス内)

今回の懇親会では世代を超えて各界各層の懇談の場とするべくより実質的な企画となっております。

近大水産研が開発した新種の鯛キンダイ (近大様ご提供)、さらには世界初の完全養殖で有名な近大マグロをご賞味いただけますのでぜひともご参加下さい。先生方におかれましては学生参加費は低く抑えておりますので、ぜひ一緒にご参加いただけますと幸いです。

参加費：一般5,000円、学生2,500円
申込方法：年会会場内の総合受付にてお申し込み下さい。

第42回国際化学オリンピック プレイベント 化学実験カーが やってくる@春季年会

協力：化学オリンピック日本委員会/化学教育協議会近畿支部
日時：3月26日(金)
1) 10時, 2) 11時, 3) 13時, 4) 14時, 5) 15時
会場：SE 会場 30 号館 学生実験室

日本化学会第90春季年会(2010)実行委員会では、2010年7月に開催が迫った第42回国際化学オリンピック東京大会のプレイベントである「化学実験カーがやってくる」を化学オリンピック日本委員会及び化学教育協議会近畿支部の協力のもと実施することにいたしました。様々な実験を通し、参加する小・中学生に化学の面白さを発見してもらえらる機会となることを期待しております。会員各位ご関係の方に是非ご参加をお勧め下さい。

プログラム

「オリジナルスタンプづくり」「水の上で動く紙の船」「なんでも太陽コピー」「身近なものを使った水の電気分解」など、いろんな実験の中からいくつか体験していただきます。高校・大学の教員が丁寧に指導します。
対象：小学生・中学生

参加費：無料

申込方法：「3/26 実験カー」と題記し、希望時間・氏名・学年・住所・電話番号を明記の上、FAX もしくは E-mail にてお申し込み下さい。

問合先：日本化学会 企画部 太田
電話(03)3292-6163 FAX(03)3292-6318
E-mail: oota@chemistry.or.jp

市民公開講座

日時：3月27日(土) 13:15-17:00
会場：S6 会場 19 号館 19-001 教室

日本化学会第90春季年会(2010)実行委員会では、一般市民の方々を対象とする恒例の「市民公開講座」を下記の内容で企画いたしました。今回も市民の方々の生活に密接に関連した身近な話題を、専門の先生方にやさしくお話していただきます。どの先生もそれぞれの分野でご活躍の著名な先生方ですので、十分楽しんでいただける半日になると思います。奮ってご参加下さい。

プログラム

13:15-13:20 開会の辞(カネカ) 中川佳樹
13:20-14:10 クロマグロの完全養殖(近畿大学水産研究所・所長) 村田 修氏
14:10-15:00 アルカリ乾電池 EVOLTA (エボルタ) (パナソニック(株)エナジー社乾電池 BU・主事) 岡田忠也氏
15:20-16:10 ダチョウ力(ぢから)(京都府立大学生命環境科学研究科・教授) 塚本康浩氏
16:10-17:00 価値ある機能性食品素材 コエンザイム Q10 (CoQ10) (カネカ QOL 事業部・幹部職) 細江和典氏

参加費：無料

申込方法：事前申込み不要。当日会場にて受付。

問合先：日本化学会 企画部 年会係
電話(03)3292-6163 E-mail: nenkai@chemistry.or.jp

工場見学バスツアー ～モノづくり企業 in 東大阪

日時：3月29日(月) 10:30-15:30

技術力の高いモノづくり企業が集積している大阪東部地域を訪ね、総合的な支援施設である「クリエーション・コア東大阪」やユニークな技術・製品を生み出している企業の見学を行います。十分楽しんでいただける半日になりますので、奮ってご参加下さい。

プログラム

10:20 集合 (近畿大学本部キャンパス南東門)
10:50-13:00 クリエーション・コア東大阪
13:15-14:00 マイティ(株)
14:15-15:00 クラスタテクノロジー(株)
15:30 解散 (近畿大学本部キャンパス南東門)

参加費：1,000円 (現地で徴収します)

定員：25名 (定員になり次第締め切らせていただきます)

申込方法：「3/29 工場見学」と題記し、氏名・所属・電話番号・E-mailを明記の上、E-mailにてお申し込み下さい。

問合せ：日本化学会 企画部 太田
電話(03)3292-6163 FAX(03)3292-6318
E-mail: oota@chemistry.or.jp

付設展示会

主催：(社)日本化学会

協力：(株)化学工業日報社

後援：日本科学機器団体連合会・(社)日本分析機器工業会・日本

薬科機器協会・(社)日本試薬協会

日時：3月26日(金)～28日(日) 10:00-17:00

会場：記念会館

参加費：無料

出展社：(1月20日現在)

(株)アイシス、(株)IDX、朝日分光(株)、アジレント・テクノロジー(株)、アステック(株)、(株)アントンパール・ジャパン、(株)イーシーフロンティア、インタクト(株)、インフォコム(株)、米国法人 Wavefunction, Inc., NPG ネイチャーアジア・パシフィック、(有)エル・エイソフト、(株)エル・エム・エス、エルゼビア・ジャパン(株)、オーシャン フォトニクス(株)、大塚電子(株)、(株)オプティマ、オプトシリウス(株)、化学オリンピック日本委員会、(独)科学技術振興機構、(財)化学技術戦略推進機構/経済産業省製造産業局 化学課、(株)化学工業日報社、(社)化学情報協会、(株)化学同人、関東化学(株)、京都電子工業(株)、(有)桐山製作所、コンプレックス(株)、サイバネットシステム(株)、サンユー電子(株)、CRC Press/Taylor and Francis Group、シグマ アルドリッチ ジャパン(株)、四国計測工業(株)、システム・インストゥルメンツ(株)、柴田科学(株)、シュプリング・ジャパン(株)、純正化学(株)、(株)スギヤマゲン、(株)セントラル科学貿易、(株)創晶、ダイセル化学工業(株)、WDB(株)、(株)デジタルデータマネジメント、(株)東京化学同人、東京化成工業(株)、東京工業大学、長瀬産業(株)、ナカライテスク(株)、ナノ フュージョン(株)、日機装(株)、ニッコー・ハンセン(株)、日本アールソフトデザイングループ(株)、(社)日本化学会 会員委員会、(社)日本化学会 学術情報部、(社)日本技術士会 化学部会、日本電子(株)、日本分光(株)、日本分析工業(株)、バイオタージ・ジャパン(株)、(株)バキューブランドサイエンティフィック ジャパン、PACIFICHEM 2010 公式旅行代理店 日本旅行、浜松ホトニクス(株)、ビー・エー・エス(株)、ビーエルテック(株)、(株)日立ハイテクノロジーズ、ヒドラス化学(株)、富士シリシア化学(株)、(株)フレックス、ベリジョンソフ ラボラトリー アクレディテーション インク、丸善(株)卸営業部、丸善(株)出版事業部、山善(株)、(株)UNICO、(株)ユニソク、ユラボジャパン(株)、(株)ライトストーン、(株)リガク、(株)菱化システム、(株)レッツェ、Royal Society of Chemistry、(株)ワイエムシイ、ワイリー・ジャパン、和光純薬工業(株)、渡辺化学工業(株)

付設展示会出展社セミナー

主催：(社)日本化学会

協力：(株)化学工業日報社

日時：3月26日(金)～27日(土)

会場：記念会館 付設展示会場内 特設会場

参加費：無料

プログラム

3月26日(金)

11:30-12:00 『高分解能・高精度 Spiral-TOFMS で質の高い構造情報を！』 日本電子(株)

13:00-13:30 『日機装の粉粒体物性評価装置(粒度分布・ゼータ電位・SEM)による測定事例・技術のご紹介』 日機装(株)

13:30-14:00 『企業内試験施設の ISO/IEC17025 認定について』 ベリジョンソフ ラボラトリー アクレディテーション インク

14:00-14:30 『ADF®を用いた有機 EL 発光材料の計算機シミュレーション』 (株)菱化システム

14:30-15:00 『SciFinder 最新事情～機能強化を中心に～』 (社)化学情報協会

15:00-15:30 『新型マイクロ波合成装置 monowave300 のご紹介』 (株)アントンパール・ジャパン

15:30-16:00 『アジレントのイノベーション 分ける・見つける・推定する：埋もれてしまった情報がくっきりと見えてくる。アジレントの MS (GC/MS, LC/MS, CE-MS) による多変量解析ソリューション (MPP)』 アジレント・テクノロジー(株)

3月27日(土)

11:00-11:30 『高速分光製品とクライオスタートのご紹介』 (株)ユニソク

11:30-12:00 『CONFLEX と Gaussian の連携活用～配座探索の重要性～』 コンプレックス(株)

13:00-13:30 『連続流れ分析法を用いた環境計測適応事例のご紹介(海洋化学及び環境水一般)』 ビーエルテック(株)

13:30-14:00 『アジレントのイノベーション 分ければわかる：超高速液体クロマトグラフで化成品や不純物を数十秒で綺麗に分離』 アジレント・テクノロジー(株)

天然物および生物有機化学に関する ナカニシシンポジウム2010

主催：ナカニシシンポジウム組織委員会

日時：3月26日(金) 13:00-17:30

会場：S2 会場 21 号館 204 教室

ナカニシシンポジウムは、日本化学会と米国化学会との取り決めにより偶数年は日本で、奇数年は米国にて表彰されるナカニシ・プライズの受賞講演を含み、日米で交互に開催されている。本プライズは生物活性天然物の単離、構造解析、生物機能、生合成及び全合成分野での顕著な研究業績を対象に選考され、本年度は本化学会に設置された選考委員会によって、山村庄亮教授(慶応大学名誉教授)に授与されることに決定した。本企画は、選考理由である「植物の就眠運動に関する化学的解明などの天然物化学における貢献」に基づき、受賞者による講演に加えて、関連する最新の研究成果を紹介していただく。

プログラム

13:00-13:30 ナカニシ・プライズ授賞式

(ナカニシ・プライズ 2010 受賞者) 山村庄亮

座長 北原 武

13:30-14:10 一筆書きの天然物(東大院理) 鈴木啓介

14:10-14:50 植物と微生物の新規シグナル化合物

(名大院農) 坂神洋次

座長 梅澤一夫

15:00-15:40 動物の行動を制御する香りやフェロモン物質の同定及びその受容機構(東大院新領域) 東原和成

15:40-16:20 植物の生活環境に関わる生理活性物質の構造と機能(筑波大生命環境) 繁森英幸

座長 橘 和夫

16:30-17:30 受賞講演 化学の目で見る植物の運動(慶応大名誉)

山村庄亮

参加費：無料

申込方法：事前申込み不要。当日会場にて受付。

問合せ：(社)日本化学会 企画部 井樋田

電話(03)3292-6163 FAX(03)3292-6318

E-mail: ihida@chemistry.or.jp

科学者・技術者の倫理と 社会的責任を考える(6)

主催：日本化学会倫理委員会

日時：3月26日(金) 13:00-17:00

会場：S4 会場 21 号館 320 教室

科学者・技術者コミュニティである理工系の学協会は、人類の安全・健康、福祉の増進や環境保全のために重要な役割を果たすことが期待され、それぞれの領域に応じた「行動規範」「科学者・技術者倫理」を確立することが、その学協会が社会から受容されるための必要条件となっている。本シンポジウムでは、産業界において活躍するすべての科学者・技術者が本来身につけていなければならない倫理とは何かを考え、それを定着させるためのスキームについて、様々な観点から議論を展開し、学会としての今後の取り組み方を考えてみたい。

プログラム

開会挨拶 13:00-13:05

(日本化学会倫理委員会委員長) 山本嘉則

第1部 (司会 寺部 茂)

講演1. 科学者と化学技術者の倫理 13:05-13:45

(本会倫理委員会委員/元住友化学(株)) 志賀昭信

講演2. リスクの評価と工学倫理 13:45-14:35

(近化協 化学技術アドバイザー/阪大工 (非常勤)/元クラレほか) 宮本 靖

<休憩> 14:35-14:45

第2部 (司会 後藤達乎)

講演3. 技術者と法規 14:45-15:25

(近化協 化学技術アドバイザー, 広島大 (非常勤), 元住友化学ほか) 菅原啓高

講演4. 知的財産権と工学倫理 15:25-16:05

(近化協 化学技術アドバイザー, 神戸大工・青学大理工 (非常勤), 元ダイセル化学工業ほか) 稲葉伸一

パネル討論—すべての科学者・技術者が備えるべき「倫理」を考える 16:10-16:55

コーディネーター 中村取三

パネリスト 志賀昭信・宮本 靖・菅原啓高・稲葉伸一・

山本嘉則

開会挨拶 16:55-17:00

(日本化学会倫理委員会委員) 後藤達乎

参加費：無料

申込方法：事前申込み不要。当日会場にて受付。

問合せ先：(社)日本化学会 企画部 井樋田

電話(03)3292-6163 FAX(03)3292-6318

E-mail: ethics@chemistry.or.jp

動的金属錯体の機能制御 —価数制御と電子移動—

日時：3月26日(金) 17:20-19:00

会場：S5会場 21号館 422教室

光・電気物性や磁性に基づくすべての機能は、電子(スピン)の配列や移動に起因していると言っても過言ではない。言い換えれば、いかに局在電子の配列や電子移動を自在に制御するかが、多様な機能を発現させる鍵となる。柔軟な電子構造をもつ金属錯体は、構造と電子状態の強い相関を示すことから、熱や光などの外場や化学刺激、分子構造変化を駆使して電子を動的に操るのに最も適した物質系の一つである。本シンポジウムでは、金属錯体における電子の価数配列と電子移動の制御による動的機能の発現に焦点を絞り、この分野の最前線で活躍している若手研究者の講演をとおして、今後の機能分子科学の将来展望を議論する。

プログラム

17:20-17:45 配位組み替え設計による分子構造変換と単電子駆動 (東大院理) 久米晶子

17:45-18:10 酸化状態の双安定性を利用した固体中での機能発現 (東北大院理) 高石慎也

18:10-18:35 金属多核錯体における分子内電子移動の外場制御 (筑波大院数物) 二瓶雅之

18:35-19:00 レドックス活性錯体液晶の動的機能 (北大院理) 張浩徹

その他：中長期企画「超分子金属錯体—超分子構造から機能への展開—」との連動企画となっております。

ケミカルレコード・レクチャー The Chemical Record Lecture 2010

主催：化学系学協会刊行フォーラム・Wiley VCH

日時：3月27日(土) 11:10-12:00

会場：F5会場 (2F5-14) 17号館 201教室

日本の化学関係8学協会(高分子学会, 電気化学会, 日本生物工学会, 日本農芸化学会, 日本分析化学会, 日本薬学会, 有機合成化学協会, 日本化学会)では学協会を結ぶ先鞭の共同事業として総合論文誌“The Chemical Record”を刊行いたしました。新しい編集体制の下、新編集委員長が講演を行います。

プログラム

11:10-12:00 ポリケタドの迅速合成と天然物合成への応用(シカゴ大理) 山本 尚

参加費：年会登録者に限る。

申込方法：当日会場にお越し下さい。事前申込み不要。

問合せ先：(社)日本化学会 企画部 企画部 TCR係

電話(03)3292-6163 FAX(03)3292-6318

E-mail: tcr@chemistry.or.jp

日本化学会・科学技術振興機構合同 特別公開シンポジウム 「分子技術イニシャティブ」

主催：日本化学会・科学技術振興機構

日時：3月27日(土) 13:30-17:20

会場：S7会場 19号館 19-002教室

環境・エネルギー・生活・持続可能社会の課題に向け様々なアプローチがなされています。当シンポジウムでは「分子科学」に「分子技術」を対比させます。「分子科学」を物理・化学・生物の分野及び先端精密生産技術と融合させ、さらに社会との接点へ展開するとき、そこには新しい語「分子技術」で表現される広大な未知領域が描かれます。Molecular Technology。

これを、国家の基盤となる一大技術集積とし、将来の環境・エネルギー・生活の課題に具えることが大きな目標となります。諸外国ではまだ積極的に意識されていないこの目標を、世界に先駆け抽出することがこのシンポジウムの目的です。

プログラム

座長 村井眞二(奈良先端大)

【1. 分子技術コンセプト】(13:30-14:15)

1-1 技術俯瞰における分子技術の多面性 (JST, NEC) 曾根純一

1-2 国家の基幹技術としての分子技術 (東大理) 中村栄一

1-3 分子科学から分子技術へ (東大工) 相田卓三

座長 山本 尚(シカゴ大)

【2. 形状・構造制御にもとづく分子技術】(14:20-14:50)

2-1 バイオ系・医療系での分子技術 (東大薬) 長野哲雄

2-2 無機・有機複合系での分子技術 (京大工) 北川 進

座長 佐藤勝昭(東京農工大)

【3. 電子状態の精密制御を可能にする分子技術】

(15:00-15:45)

3-1 さらなる期待を集める分子エレクトロニクス (住友化学筑波研) 大西敏博

3-2 自発光柔軟表示システムの市場と開発競争—分子フォトンクスへの期待 (NHK 技研) 時任静士

3-3 無機・有機複合系の電子状態制御 (東京理科大) 福山秀敏

座長 藤田照典(三井化学)

【4. 変換分子技術・プロセス分子技術】(16:10-16:25)

4-1 グリーンテクノロジーと分子技術 (東工大資源研) 辰巳敬

座長 西村伸太郎(アステラス製薬)

【5. 集合体・複合体の制御にかかわる分子技術】(16:25-16:55)

5-1 汎用新バイオ技術の開発と創薬への期待 (東大先端研) 菅裕明

5-2 さらなる期待を集める膜技術 (東レ地球環境研) 辺見昌弘

座長 諸熊奎治(京都市大・エモリー大)

【6. 分子設計・機能設計に基づく分子創成】(17:00-17:15)

6-1 超高速計算機がもたらす分子技術の革新 (理研次世代分子理論ユニット) 平尾公彦
 座長 玉尾皓平 (理研)
 【7. 展望】 (17:15-17:20)
 7-1 分子性, 合成分子技術, 分子技術イニシヤティブ (奈良先端大) 村井眞二・(東大理) 中村栄一
 参加費・資料代: 無料
 申込方法: 当日会場受付へ (事前申込み不要)。
 問合せ先: 科学技術振興機構研究開発戦略センター 永野・中山
 電話(03)5214-7483

第17回化学教育フォーラム

主催: 日本化学会 化学教育協議会
 日時: 3月27日(土) 13:00-16:30
 会場: SD 会場 B 館 403 教室

今, 理科の学習内容・時間が増えた新学習指導要領が小・中学校で先行実施されています。このような状況をふまえて, 新学習指導要領で求められる学力とその主眼である科学リテラシーについて議論を深めたい。また同時に, 新学習指導要領が視野に入れている理科(化学)教員の新しい姿についても探っていききたい。

プログラム

1. 開会の挨拶 化学教育協議会議長
<13:10-14:10>
 2. 高等学校学習指導要領の改訂と今後の理科(化学)教育(文部科学省初等中等局) 林 誠一
 3. PISA から見える日本の科学リテラシー(国立教育政策研究所) 小倉 康
<14:10-15:10>
 4. 新指導要領に期待すること(東京大学) 村田 滋
 5. 新学習指導要領と新しい理科(化学)教育のすがた(京都教育大学) 村上忠幸
 6. 科学的リテラシーの育成と新指導要領(奈良女子大学附属中等教育学校) 越野省三
 7. 新指導要領の先行実施から見える科学リテラシー(宇治市立北宇治中学校) 西川光二
<15:10-16:30>
 8. パネルディスカッション 司会 村上忠幸
 9. 閉会の挨拶(開成学園中学校高等学校) 齊藤幸一
- 参加費: 無料
 申込方法: 事前申込み不要。
 問合せ先: (社)日本化学会 企画部 大倉
 電話(03)3292-6164
 E-mail: ohkura@chemistry.or.jp

第二次先端ウォッチング イブニングセッション ゲノムケミストリーの医療への展開

日時: 3月27日(土) 13:30-17:30
 会場: S3 会場 21 号館 205 教室
 ゲノム関連研究の迅速な遂行とそれをベースとしたゲノム産業の創出には, “ものづくり” が可能な化学の立場からの研究が重要であることは言をまたない。その中心を占めるのがゲノムケミストリーであり, この分野の研究に今全力を注がないと, 21 世紀のゲノム関連研究・産業創出において, 国際的に太刀打ちできなくなることは必至である。
 換言すると, 今回「ゲノムケミストリー」研究分野において優れた研究を行っており, 国際的にも高い評価を受けているメンバーが一堂に会し, 情報・意見交換することにより, 遺伝子の機能探索や情報発現機構の解明などの基礎研究のみならず, これらの基礎研究に基づくゲノム創薬, 遺伝子診断, バイオチップ, バイオセンサー, バイオナノ材料などのバイオ・ゲノム関連事項に有効利用できる機能性人工核酸の創製・開発などの応用研究の急速な発展をもたらすことが期待される。また, 波及効果として, 得られた有用な研究成果を我が国の企業に発信することによって, 企業に刺激を与え, 上記の研究開発・企業化を目指した欧米型ベンチャー企業を立ち上げさせることも可能である。
 その結果, 我が国のゲノム研究のレベルを, 最先端レベルにまで持ち上げることができると期待される。

プログラム
 13:30-13:50 化学修飾核酸の創製と創薬への展開(岐阜大院創薬) 北出幸夫
 13:50-14:10 がん抑制マイクロ RNA-143, -145 の発癌へのカスケード(岐阜大院創薬) 赤尾幸博
 14:10-14:30 リン原子修飾による核酸の構造・機能制御(東大院新領域) 和田 猛
 14:30-14:50 芳香族化合物で修飾した安定で有用な RNA 分子の開発(岐阜大工) 上野義仁
 14:50-15:10 機能性人工核酸の開発—新たな核酸医薬・診断薬創出に向けて—(阪大院薬) 小比賀 聡
 15:30-15:50 刺激応答性人工核酸を活用したゲノムケミストリーの新展開(東北大院工) 和田健彦
 15:50-16:10 RNA の部位特異的修飾のための人工核酸ツールの開発と応用(九大院薬) 佐々木茂貴
 16:10-16:30 短鎖 RNA の検出を指向した新規人工核酸の開発(東大院生命理工) 清尾康志
 16:30-16:50 遺伝子解析に活用する試薬の開発(産技研ゲノムファクトリー) 小松康雄
 16:50-17:10 カートリッジ型人工ヌクレオチドによる機能性 DNA の設計と応用(名大院工) 浅沼浩之
 17:10-17:30 新規蛍光制御法による効率的核酸イメージング(理研) 岡本晃充

第二次先端ウォッチング イブニングセッション フォトクロミズムとメカニカル機能

日時: 3月27日(土) 14:00-17:50
 会場: SA 会場 B 館 201 教室
 フォトクロミック分子の歴史は古く, 19 世紀半ばにはすでにその存在は知られていた。現在までに数多くのフォトクロミック化合物が報告されているが, フォトクロミズム研究における日本の役割は大きく, 代表的なフォトクロミック分子は日本人により創製されたと言っても過言ではない。フォトクロミック分子はこれまで光メモリー, 光スイッチ, イオン捕集のような光制御における光応答分子としてもっぱら使われてきたが, 近年では物質レベルのマクロな動きを誘起するナノレベルの光トリガーとしても注目されている。本セッションでは急速に発展しつつあるこれらの新しい分野に視点をあて, フォトクロミック分子のもつ新しい可能性をいろいろな角度から追求する。

プログラム

- 14:00-14:20 ジアリアルエテン単結晶のフォトメカニカル機能(立教大理) 入江正浩
- 14:20-14:40 超高速時間分解計測によるフォトクロミック反応ダイナミクスとメカニズムの解明(阪大院基礎工) 宮坂 博
- 14:40-15:00 フォトクロミック表面におけるメタル堆積コントロール(阪教大教育) 辻岡 強
- 15:00-15:20 光により誘起される超撥水・超親水性表面(龍谷大理工) 内田欣吾
- 15:20-15:40 高性能フォトクロミック化合物の創製(横国大院工) 横山 泰
- 15:50-16:10 アバランシェ型フォトクロミック反応系の構築(京大院工) 松田建児
- 16:10-16:30 巨大構造変化を伴うフォトクロミック系の創出(筑波大筑波大院数理物質) 新井達郎
- 16:30-16:50 高速フォトクロミック分子の開発(青山学院大理工) 阿部二郎
- 16:50-17:10 2 次元の分子集合に基づく光メカニカル機能発現と応用(名大院工) 関 隆広
- 17:10-17:30 架橋フォトクロミック液晶高分子を用いたメカニカル機能の創出(東工大資源) 池田富樹
- 17:30-17:50 光メカニカル機能を持つ時空間高分子材料の創成(東大院工) 吉田 亮

産学交流シンポジウム2010 化学の世界をシミュレーション

主催: 日本化学会産学交流委員会
 日時: 3月28日(日) 10:00-15:10
 会場: SC 会場 B 館 402 教室

化学の世界では実験が不可欠である。そして失敗も含め偶然の幸運に恵まれた予期せぬ実験結果が、化学技術の発展に寄与した例は多い。かように実験結果は多様であるが、実験を行おうとする動機は怪しい錬金術における欲望をはじめ、何らかの仮説とそれが正しいであろうという期待からではないだろうか。しかし、簡単な実験であればすぐにできるが、実験には経済的な制約がつきものである。昨今は環境への影響も大問題であり、実験装置導入に環境アセスメントを行っている企業もある。このように種々の制約がある実験を行う前に、その期待値をあげることであれば、効率的に研究開発を進めることができる。コンピューターシミュレーションはその一手法であり、化学の様々な分野で活用されている事例をもとに、化学におけるシミュレーションを議論してみたい。

プログラム

10:00-10:50 基調講演 シミュレーションで材料開発はどう変わるか(東京大学大学院工学研究科・教授) 土井正男
10:50-11:30 材料の自発的構造形成と材料設計 ((株)豊田中央研究所材料分野計算物理研究室・室長) 兵頭志明
11:30-12:10 材料設計—高分子材料設計(旭化成(株)基盤技術研究所) 青柳岳司
13:00-13:40 次世代コンピューターの化学への応用 [開発者側] (理化学研究所) 姫野龍太郎
13:40-14:20 シミュレーション技術の応用事例—ガラス材料の設計(旭硝子(株)中央研究所) 高田 章
14:30-15:10 シミュレーション技術の応用事例—有機光学材料の設計(法政大学情報科学部/元住友化学(株)筑波研究所) 善甫康成
司会: 倉地育夫(コニカミノルタビジネステクノロジーズ) ほか
参加費: 無料。講演資料代: 1,000円(当日徴収)
申込方法: 「3/28 産学交流シンポジウム出席」と標記し、氏名・所属・連絡先住所・電話番号・FAX 番号・E-mail を明記の上、E-mail (matsubara@chemistry.or.jp) にてお申し込み下さい(内容問合せ: 保倉光邦)。
申込先: (社)日本化学会 企画部 松原・保倉
〒101-8307 千代田区神田駿河台1-5
電話(03)3292-6163 FAX(03)3292-6318
E-mail: matsubara@chemistry.or.jp

第10回記念シンポジウム: 男女共同参画の過去・現在・未来

主催: 男女共同参画推進委員会
共催: 男女共同参画学協会連絡会
日時: 3月28日(日) 13:30-17:20
会場: S7 会場 19号館 19-002 教室

現在、男女共同参画社会の実現を目的として、様々な組織、また地域に男女共同参画推進委員会が設けられています。一方で、その存在や男女共同参画に関する理解は、まだ一般に広く知られていないという現実があります。今年は、男女共同参画社会基本法制定10周年にあたり、さらに日本化学会で開催されてきたシンポジウムも、第81春季年会(平成14年3月)の第1回から数えて、本第90春季年会のシンポジウムは第10回目となり一つの節目を迎えます。したがって化学者を取り巻く社会や本学会の男女共同参画推進に対するこれまでの歩みを整理し、将来の発展につなげていくことは極めて有意義です。本シンポジウムでは男女共同参画社会の実現に向けた取り組みについて、様々な観点からこれまでの活動を総括し、今後の活動に向けた提言を行います。

プログラム

13:30~ 開会挨拶 日本化学会会長 岩澤康裕
13:35~ 趣旨説明 シンポジウム実行委員長 引地史郎
日本化学会男女共同参画推進委員会委員長 佐々木政子
13:50~ 基調講演「科学技術政策と男女共同参画」
科学技術振興機構 塩満典子
15:00~ 依頼講演
「日本化学会の取り組み」 神戸大学特別顧問 相馬芳枝
「女性研究者支援モデル育成事業の実例~研究者と2児の母の両立~」 大阪大学産業科学研究所 武井史恵
「化学会を取り巻く男女共同参画の実情と将来~アンケートの分析より」 お茶の水女子大学 森 義仁
16:50~ 総合討論
17:10~ 閉会挨拶 日本化学会男女共同参画推進委員会
前理事 下井 守, 理事 小島秀子
参加費: 無料

申込方法: 事前申込み不要。当日会場にて受付。
申込先/問合せ: (社)日本化学会 総務部 佐藤
〒101-8307 千代田区神田駿河台1-5
電話(03)3292-6161 FAX(03)3292-6318
ご案内: シンポジウム終了後18時~19時30分にノベンバー食堂(11月ホール地下)にて懇親会を開催いたします。参加費は無料ですので、奮ってご参加下さい。

化学遺産市民公開講座

企画: 日本化学会化学遺産委員会
主催: 日本化学会・化学史学会
共催: 日本化学工業協会・化学技術戦略推進機構ほか
日時: 3月28日(日) 13:00-16:40
会場: S3 会場 21号館 205 教室

化学遺産委員会では主に現在、①化学・化学技術史に関する資料等の調査・収集・整理・保管とそれら情報のデータベース化と公開。②化学研究及び化学技術面で大きな功績を残された高名な化学関係諸先達にインタビューを行い、それを映像と音声及び冊子体で後世に残す事業[化学語り部: オーラルヒストリー事業]。③会員及び一般市民を対象とする化学・化学技術史に関する普及啓発事業の実施[市民公開講座・化学史料展示会の春季年会での開催]を行っていますが、本年度より新たに、④化学関連の学術遺産あるいは化学技術遺産の中で、特に歴史的に高い価値を有する貴重な史料を認定する『化学遺産認定制度』を実行に移すこととし、化学遺産認定候補として相応しいと判断されるもの数件の調査・検証作業を行ってきました。今回の市民公開講座では、本年度認定候補として調査・検証を行ったそれら候補内容についてご紹介いたします。奮ってご参加下さるようご案内いたします。

プログラム

総合司会: (化学遺産委員会委員・化学史学会会長) 亀山哲也
開会挨拶・紹介(13:00~13:15)
『日本化学会化学遺産委員会事業のいま、これから』
(日本化学会化学遺産委員会委員長/岡山理科大学教授・京都大学名誉教授) 植村 榮氏
講演
1. 『喜多源逸—京都大学に工業化学の伝統をつくった男』
座長 植村 榮(13:15~13:55)
(日本大学生物資源科学部教授) 古川 安氏
2. 『化学遺産: 日本の化学の開拓者—宇田川榕菴・高峰譲吉・池田菊苗』座長 岡崎廉治(13:55~14:35)
(日本化学会化学遺産委員会委員/大阪大学名誉教授) 芝 哲夫氏
3. 『化学遺産: 日本倉密製造会社とルブラン法炭酸ソーダ製造法塩酸吸収塔』
座長 三浦勇一(14:35~15:05)
(日産化学工業(株)小野田工場総務課長) 北嶋 昭氏
—休憩—
4. 『化学遺産: ビスコス法レーヨン工業の発祥が教えること』
座長 内田正夫(15:35~16:05)
(日本化学会化学遺産委員会委員/日本化学会フェロー)
田島慶三氏
5. 『化学遺産: 旭化成と延岡市—カザレー式アンモニア合成が遺したもの』座長 若林文高(16:05~16:35)
(旭化成株式会社上席執行役員延岡支社長) 水永正憲氏
閉会挨拶(16:35~16:40)
(化学遺産委員会顧問/東北大学名誉教授) 荻野 博氏
参加費: 無料。資料代: 1,000円(当日徴収)
申込方法: 化学遺産市民公開講座参加希望と標記し、氏名・所属・連絡先住所・電話番号・FAX・E-mail を明記し下記宛お申し込み下さい。当日参加もできます。
申込先: (社)日本化学会 企画部 太田
〒101-8307 千代田区神田駿河台1-5
電話(03)3292-6163 FAX(03)3292-6318
E-mail: oota@chemistry.or.jp

環境・安全シンポジウム2010 大学・高専における化学実験室の 現状と課題 —法人化後の実験施設と安全管理—

主催：日本化学会 環境・安全推進委員会
日時：3月28日(日) 13:30-17:00
会場：SB 会場B館 401 教室

国立大学等が法人化してから6年が経過し、大学や高専の安全衛生管理体制も法人化前に比べて大きく様変わりした。研究室レベルにおいても、実験設備の定期点検、産業医巡視や自主職場点検、安全講習の受講義務など、労働安全衛生法に基づく安全管理が浸透しつつあるが、その一方で、研究の多様化・高度化に対応した実験施設のあり方や、大学間での取り組み状況の差など、実験研究現場の環境安全について、検討すべき課題はまだ多く残されている。本シンポジウムでは、大学や高専の化学実験室の現状について具体例をご紹介いただき、そこから浮かび上がってくる実験施設や安全管理の問題点を抽出し、課題解決に向けた方策を考える。

プログラム

13:30-13:45 開会挨拶(環境・安全推進委員会委員長) 山辺正顕
13:45-14:15 大学における化学系実験の安全向上:設備、管理、教育(九州大学先端物質化学研究所) 友岡克彦
14:15-14:45 大学の実験現場における安全管理と安全教育—こころはウィーンか小田原か—(大阪大学安全衛生管理部) 富田賢吾
14:55-15:25 富山高専の環境安全に対する取り組みと悩み(富山工業高等専門学校) 伊藤通子
15:25-15:55 安全衛生に配慮した大学実験施設の整備(文部科学省大臣官房文教施設企画部) 斉藤福栄
16:00-17:00 パネルディスカッション(総合司会:事業小委員会委員長) 大島義人

参加費：無料。講演資料代：1,000円(当日徴収)

申込方法：「3/28 環境・安全シンポジウム出席」と標記し、氏名・所属・連絡先住所・電話番号・FAX番号・E-mailを明記の上、E-mail(matsubara@chemistry.or.jp)にてお申し込み下さい(内容問合せ先:保倉光邦)。なお、当日は13時から受付を行います。

問合せ先：(社)日本化学会 企画部 松原・保倉
〒101-8307 千代田区神田駿河台1-5
電話(03)3292-6163 FAX(03)3292-6318
E-mail:matsubara@chemistry.or.jp

第4回環境・安全問題見学会

(環境・安全シンポジウム併催行事)

本委員会では、環境・安全問題を考える機会を会員各位と共有するため、環境・安全への取り組みに優れた施設・設備、先進的な活動を行っている機関・事務所を訪問する自己啓発型の見学会を開催いたしております。

今回は、「環境・安全シンポジウム」の翌日である平成22年3月29日(月)午後、(株)カネカ大阪工場(摂津市)への見学を予定しています。詳細は下記HPにてご確認の上、標記シンポジウムとあわせてご参加下さいますようお願いいたします。
環境安全 HP <http://www.chemistry.or.jp/es/index.html>

年会博士セミナー

主催：博士セミナー実行委員会
日時：3月28日(日) 13:00-17:30
会場：S9 会場B館 101 教室

科学技術で生き残りを図る日本において、科学技術を推進する原動力、イノベーションの担い手として、学においても産においても高度な知識と研究開発力を持った博士人材が非常に期待されています。一方で、博士課程在学中に企業・社会を実際に学ぶ機会が少なく、産に目を向ける場面が少ないのが実情です。日本化学会では、2007年度より、化学系学生を対象に「博士セミナー」を東京、大阪等で開催し、また、第88春季年会からは、年会会場において、受講対象者を博士課程学生のみならず、修士課程学生、ポスドクの方まで幅広く広げて、「年会博士セミナー」を実施、好評を得ております。第90春季年会におきましても、全国から学生が多く集まる春季年会において、産業界をもっと知ってもらう「年

会博士セミナー」を開催いたします。

プログラム

13:00-13:30 企業研究に関する博士研究者の疑問・質問と企業の実際(博士セミナー実行副委員長、住化技術情報センター) 山近 洋
13:40-14:40 研究開発事例「ピレスロイド系殺虫剤の発展と化学—企業の探索研究で成功するために—」(住友化学(株)シニアリサーチスペシャリスト) 松尾憲忠
14:50-17:20 博士卒業企業若手研究者による研究開発事例紹介とパネル討論 パネリスト:齋藤明良(花王)、福井祥文(カネカ)、國本和彦(チバ・ジャパン)
司会:博士セミナー実行委員
17:20-17:30 総括 長瀬公一(博士セミナー実行委員会副委員長、東レ)

受講対象者：博士課程進学希望の修士課程在籍者、博士課程在籍者、及びポスドク研究者、博士セミナーに関心のある産学官の皆様

参加費：無料

申込方法：当日会場にて申込み可能ですが、①氏名、②所属・役職、③連絡先(〒、住所、電話番号、FAX番号、E-mail)を明記し、事前に下記宛お申し込み下さい。

申込先：(社)日本化学会 企画部 松原
電話(03)3292-6163 FAX(03)3292-6318
E-mail:matsubara@chemistry.or.jp

問合せ先：(社)日本化学会 企画部 百武
電話(03)3292-6163 FAX(03)3292-6318
E-mail:hyakutake@chemistry.or.jp

日本の学術の展望

—化学からの提言2010と科学技術政策提言—

共催：日本学術会議第三部化学委員会・
日本化学会将来構想委員会・高分子学会
日時：3月28日(日) 13:00-17:30
会場：S6 会場19号館 19-001 教室

日本学術会議第三部(理学・工学)及び化学委員会では、学術研究の方向等を長期的視野で検討し、日本の学術研究の方向・展望を「日本の展望—理学・工学の提言2010」及び「日本の展望—化学からの提言2010」としてとりまとめた。化学委員会の各専門分野委員会の展望・提言を日本化学会会員に紹介し議論を行う。その骨子を第4期科学技術基本計画(戦略)への反映に努める。

プログラム

13:00-13:05 開会の辞(趣旨説明) 岩澤康裕
13:05-13:20 日本学術会議第三部(理学・工学)部長 岩澤康裕「日本の展望—理学・工学からの第4期科学技術基本計画(戦略)への提言」
13:20-13:35 日本学術会議第三部化学委員会委員長 藤嶋 昭「日本の展望—化学からの提言2010」
13:35-14:00 化学委員会物理化学・生物物理化学分科会委員長 北川禎三「物理化学・生物物理化学からの提言2010」
14:00-14:25 化学委員会無機化学分科会委員長 田中晃二「無機化学からの提言2010」
14:25-14:50 化学委員会有機化学分科会委員長 山本嘉則「有機化学からの提言2010」
14:50-15:15 化学委員会高分子化学分科会委員長 岡本佳男「高分子化学からの提言2010」
15:20-15:45 化学委員会分析化学分科会委員長 澤田嗣郎「分析化学からの提言2010」
15:45-16:10 化学委員会材料化学分科会委員長 橋本和仁「材料化学からの提言2010」
16:10-16:35 化学委員会結晶学分科会委員長 菅原 正「結晶学からの提言2010」
16:35-17:00 化学委員会生体関連化学分科会委員長 青山安宏「生体関連化学からの提言2010」
17:00-17:25 化学委員会化学工学・触媒工学分科会委員長 架谷昌信「化学工学・触媒工学からの提言2010」
17:25-17:30 閉会の辞 藤嶋 昭

参加費：無料

申込方法：事前申込み不要。直接会場へお越し下さい。

問合せ先：岩澤康裕(電通大)
電話(042)443-5921 E-mail:iwasawa@pc.ucc.ac.jp

**国際シンポジウム
「光エネルギーと物質変換：
人工光合成の未来」
International Symposium on
Chemical Conversion of
Light Energy**

主催：科学技術振興機構・日本化学会
日時：3月28日(日) 09:45-17:55
会場：SA 会場B館201教室

太陽光エネルギーなど自然再生エネルギーの本格的な利用が喫緊の課題となっている。科学技術振興機構さきがけ「光エネルギーと物質変換」領域では、太陽光の有効利用の中で最も本質的な課題の一つである「光エネルギー/化学エネルギー変換(人工光合成)」に真正面から取り組んでいる。本国際シンポジウムでは「人工光合成」の研究最前線について日本化学会の春季年会において、日本化学会と科学技術振興機構が共催して世界の当領域の最先端研究者を招聘し、さきがけ研究領域の現状と将来展望について議論する。人工光合成領域とさきがけ領域の重要性を若手研究者に情報発信し、次代の研究者とともに課題の鮮明化と相互の科学的刺激により当領域の一層の研究推進に資する。

プログラム

- 09:45-09:50 Opening Remark (Tokyo Metropolitan Univ.) Prof. Haruo Inoue
09:50-10:00 Welcome Message (JST)
10:00-10:35 Photochemical oxygenation through two-electron conversion with water as electron donor and oxygen atom donor: Toward artificial photosynthesis (Tokyo Metropolitan Univ.) Prof. Haruo Inoue
10:35-11:10 Charge accumulation in molecular arrays (Newcastle Univ., UK) Prof. Anthony Harriman
11:10-11:45 Development of highly efficient photocatalysts for CO₂ reduction (Tokyo Institute of Tech.) Prof. Osamu Ishitani
11:45-12:00 Introduction to JST "PRESTO" Projects
12:00-13:00 Poster Session
1. Visualizing molecular structures in the course of light-energy conversion processes by means of time-resolved X-ray structural analysis (High Energy Accelerator Research Organization) Shinichi Adachi
 2. Development of highly efficient water splitting system using highly functional organic dyes (Hokkaido Univ.) Ryu Abe
 3. Development of large photofunctional π -conjugated systems (Kyoto Univ.) Naoki Aratani
 4. Computational analysis of photoinduced electron transfer reactions in proteins (Kyoto Univ.) Hiroshi Ishikita
 5. Carbon dioxide multi-electron reduction catalysts constructed based on peptide origami (Kitasato Univ.) Hitoshi Ishida
 6. Development of optical functional materials with hierarchical nano system (Kyusyu Univ.) Shintaro Ida
 7. Protein Engineering for creation of algae with high formate productivity (Shinshu Univ.) Masaki Ihara

8. Development of visible-light-driven catalytic transformation system of organic molecules (Tokyo Institute of Tech.) Akiko Inagaki
9. Studies on biosynthesis of the active-site iron-complex from [Fe]-hydrogenase (Max-Planck-Institute for Terrestrial Microbiology) Seigo Shima
10. Organization and functional analysis of supramolecular assembly of photosynthetic membrane proteins (Nagoya Institute of Tech.) Takehisa Dewa
11. Efficient photoreduction of carbon dioxide catalyzed by an iron complex bearing a phosphalkene ligand (Kyoto Univ.) Yumiko Nakajima
12. Development of highly-active oxygen evolving catalysts toward visible-light-induced water splitting (Kyushu Univ.) Shigeyuki Masaoka
13. Development of a nano-hybrid catalyst for photochemical water oxidation toward a hydrogen-producing solar cell (Niigata Univ.) Masayuki Yagi
- 13:30-14:05 Photochemical CO₂ reduction using transition metal complexes: current status and future prospects (Brookhaven National Laboratory, USA) Dr. Etsuko Fujita
- 14:05-14:40 Efficient molecular catalysts for visible light driven water oxidation (Royal Institute of Tech (KTH), Sweden) Prof. Licheng Sun
- 14:40-15:15 Design and assembly strategies Towards photo-functional materials (Univ. of Hong Kong, Hong Kong) Prof. V. W. W. Yam
- 15:15-15:25 Coffee Break
- 15:25-16:00 Development of Oxynitride Photocatalysts for Overall Water Splitting (The Univ. of Tokyo) Prof. Kazunari Domen
- 16:00-16:35 Design of molecular inorganic materials towards artificial photosynthesis (The Univ. of Tokyo) Prof. Kazuhito Hashimoto
- 16:35-17:10 Pioneering development of next-generation organic photovoltaics (Research Center for Advanced Science and Technology, The Univ. of Tokyo) Prof. Hiroshi Segawa
- 17:10-17:45 Gold nano-structure enhanced photocurrent generation system from ultraviolet to near-infrared wavelength (Hokkaido Univ.) Prof. Hiroaki Misawa
- 17:45-17:55 Closing remark (Tsukuba Univ.) Emeritus Prof. Katsumi Tokumaru

参加費・講演要旨代：無料

申込方法：3/28 国際シンポジウム参加希望と明記し、①氏名、②所属・職位、③連絡先住所(〒)・電話番号・FAX番号、E-mailを明記し下記宛 E-mailでお申し込み下さい。当日参加も可能です。なお本国際シンポジウムのみ参加希望の場合には春季年会への参加登録は不要です。

申込先：科学技術振興機構さきがけ「光エネルギーと物質変換」領域事務所
電話(042)653-3415 FAX(042)653-3416
E-mail: torii@chem-conv.jst.go.jp

科学技術振興機構 研究者支援事業「さきがけ」説明会

3月28日(日)11時45分より上記国際シンポジウム会場で科学技術振興機構研究者支援事業「さきがけ」の説明会を開催いたします。応募案内に関する資料をお渡しいたしますので、奮ってご参加下さい。